円山小学校
学校だより
まどかっ子
令和８年３月１７日
第２５号

卒業おめでとう

３月１０日（火）に第78回卒業証書授与式が行われました。79名の卒業生が、晴れ晴れとした表情で、円山小学校を巣立っていきました。79名は、いくつかの中学校へ進学しますが、円山小学校の卒業生として、大きく羽ばたくことをお祈りしています。

卒業証書授与

校長式辞

来賓の方から
祝辞をいただきました

卒業式　校長式辞

受け取った証書を見ながら、
証書に込められた意味を知る

寒さが残る中に、春の兆しを感じる今日のこのよき日に、巣立ちの日を迎えられた七十九名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業証書を受け取る「凛とした姿」を見て、改めて皆さんが過ごした六年間が、充実した日々であったのだと、感じています。

今、一人一人に卒業証書を渡しました。その卒業証書を手に取り、そっと開いて見てください。

一番右上にはハンコの下半分だけが押されています。このハンコには「福井県福井市立円山小学校」と書かれています。ハンコの上半分は、卒業生の名簿の上に押されて学校に保管されます。これは、あなたがこの円山小学校を卒業したという確かな証です。あなたの手元と学校にずっと残るものです。

その下に番号が書かれています。第一回卒業生からずっとつながっているものです。この番号は、ただの人数や順番を示しているものではありません。あなたが、この円山小学校の伝統を受け継ぎ、それを後輩たちに引き継いだという証であるとともに、あなたが本校の伝統を作り上げた一人であることを示しています。

次に一番大きな字で「卒業証書」と書かれ、その下には卒業証書にしか使われない円山小学校の大きなハンコが押され、「小学校の課程を卒業したことを証します」と書かれています。

これは、あなたが令和２年５月２９日に入学し、ひらがなや数の数え方の練習から始めた小学校での学びを、ここにいる仲間たちとともに、しっかりと積み上げ、すべての課程を修了したことを示すものです。

そこにはあなたの名前が書かれています。これは世界で一つのあなただけの卒業証書だからです。そのあなたの名前をじっと見つめてください。

「あんなことできるかな」「こんなこともできるといいな」親には「こんな子供になってほしい」という願いがたくさんある。たくさんの願いの中から、たった一つを選んだ。それが、あなたの名前です。名前には、親が我が子に込めた願いや祈り、夢や希望がたくさん詰まっています。そのたっぷりの愛情は、これまでも、そして今現在も、もちろん、これから先も、ずっとずっと、その愛情は注がれます。

その下には、あなたの誕生日が書かれています。その日にあなたは生まれました。その日はどんな日だったのでしょうか？聞いてみたことはありますか？天気はどうだったのでしょうか？晴れていたのでしょうか？寒かったのでしょうか？どんな日であっても、あなたが生まれたことを、家族みんながどれほど喜び、どれほど幸せな気持ちになったことでしょう。それが、あなたの人生がスタートした日なのです。

そして、今日までの１２年間、あなたはたくさんのことを乗り越えて今日を迎えました。でも、どんな時でも、あなたは一人ではありませんでした。
熱が出て寝込んだ時には、ずっとそばにいてくれました。
上手くいかないとき、思い通りにならないときには、真剣に話を聞いてくれました。
間違ったことをした時には、目を見て叱ってくれました。
練習を重ね、心が一つになり、達成感でいっぱいになった連合音楽会。
力の限りを尽くして、みんなで創り上げ、友達と肩を抱いて涙した校内体育大会。
問題が解けないでいるときには、優しく教えてくれました。
あなたの良いところを、素敵なところを、すごいねと褒めてくれました。
家族、友達、先生、地域の方・・。
たくさんの人があなたのことを見ていてくれて、あなたのことを大切に思い、支えてくれたことを忘れないでほしい。
下のほうには、今日の日付があります。小学校卒業の日であり、次への羽ばたきの日でもあります。人生の節目の日であることを示しています。
一番下には校長名が書いてあります。これからの人生を自分らしく、一日一日、一時一時を大切に積み重ね、「あなたにしかつくれない、あなただけの、あなたらしい道」を歩んでほしいという、私たち教職員全員がもつ想いを代表して校長名が書かれています。
卒業証書はたった１枚の紙ですが、そこには、あなたの大きな６年間の歩みと、これからの未来が、たくさん詰まっているのです。
では、卒業証書を静かに戻しましょう。

ご列席をいただいております、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きな愛情をもって育てられたお子様が、健やかに成長され、本日、卒業という節目を迎えられました。今日までわが子を慈しみ、育まれた日々には、子供たちの小学校生活と同じように、様々な日々があったことと拝察いたします。「順風満帆のとはいかなくとも、すべての日に意味があったのだ。」皆様の前で座っている彼らの立派な姿が、そう証明してくれているのではないでしょうか。私共教職員一同、力を合わせて教育にあたって参りました。時にはご期待に十分に応えられなかったこともあったと存じます。ですがどうぞ、今日の彼らの堂々とした姿に免じてご容赦ください。また、これまで長きに渡り、ＰＴＡ活動や登下校の見守り、地域の行事など様々なご支援をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん、いよいよお別れが近づいてきました。
最後に、もう一つだけお話しします。今年開催された、ミラノ・コルチナオリンピックの話です。過去最多となる数のメダルを獲得して、連日テレビや新聞で大いに盛り上がりました。たくさんの選手がインタビューされる中、私が一番心に残ったのは、スキージャンプ女子の伊藤有希選手のインタビューでした。これまでに日本代表として４度のオリンピックに出ましたが、一度も悲願のメダルには手が届かなかった選手です。最後の試合が終わった後、このようにインタビューに答えています。
「こうして４度もオリンピックに挑戦させてもらって、メダルを獲ることはできなかったんですけれど、今まで私がさせていただいた経験と、携わってくださった方々が、私にとって金メダル以上に大切なものだったということを感じたので、私の幼い頃からの夢である『オリンピックで金メダルを獲る』という夢は達成できたんじゃないかなって思います」と言いました。
伊藤有希選手は、オリンピックゲームでのメダルを手にすることはできませんでしたが、心の中に、目には見えない、とても大切な大切な、価値ある金メダルを手にすることができたのだと思います。これもまた本物です。
これからの学校生活、そして、その先にある人生において、あなただけの金メダルを見つけてほしいと切に願います。
卒業する皆さんと保護者の皆様の未来が、笑顔に満ちたものとなることを祈念して、式辞といたします。

令和八年三月十日
福井市円山小学校　校長　竹田　昇